

第8期富山県生涯学習審議会委員

番号	氏名	役職名
1	麻畑 秋市	日本ボーイスカウト富山県連盟事務局長
2	新井 郁男	上越教育大学名誉教授
3	磯野くに子	県生涯スポーツ協議会副会長
4	板倉 均	北日本新聞社事業局長兼文化センター長
5	伊藤 通子	NPO法人 ESD-J 理事 (持続可能な開発のための教育の10年推進会議)
6	稲葉 実	県専修学校各種学校連合会常任理事
7	大石 昂	富山大学生涯学習教育研究センター長
8	大楠 匡子	県PTA連合会副会長
9	鹿熊 久三	富山県公民館連合会会長
10	経田 博子	フリーアナウンサー・県民カレッジ自遊塾県民教授
11	東海 寿子	公募委員
12	中西 彰	富山県民生涯学習カレッジ学長
13	中屋 久孝	滑川市教育長
14	西出 紀子	県婦人会副会長
15	藤井 久丈	富山経済同友会幹事・教育問題委員会委員長
16	堀 明弘	公募委員
17	村上 和子	県生涯学習団体協議会専務理事
18	森本富志雄	県労働者福祉事業協会理事長
19	和田 朝子	富山県芸術文化協会副会長 和田朝子舞踊研究所代表
20	渡邊 裕司	放送大学富山学習センター所長

(任期：平成17年12月19日～平成19年12月18日)

家庭や地域における健やかな子どもの育成

政策目標 (政策の目指すべき成果)

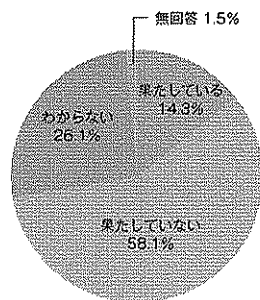
子どもたちが、家族や地域の人々との触れ合いのなかで、基本的な生活習慣や社会性を身につけ、精神的に自立した若者に成長していくこと。

現状と課題

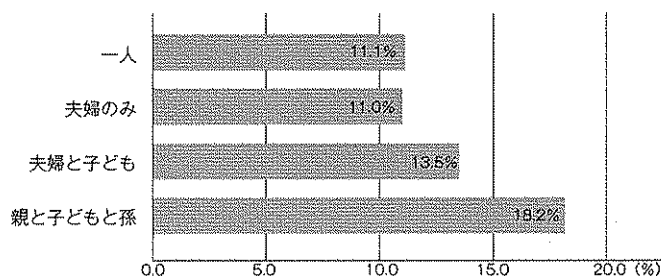
- 社会的マナーや善悪の判断力、思いやりの心などが十分身につけていない子どもが増えるとともに、子育てに悩み、自信の持てない親も増加しており、家庭の教育力の低下に対する懸念が高まっています。
- 県政世論調査結果(平成18年度)によると、子どもの教育において家庭が役割を果たしていると思う県民が14.3%にとどまっています。しかし、三世帯同居の世帯においては、その割合は18.2%と比較的高くなっています。この三世帯同居割合については、本県は他県に比べて高い状況にあります(H17:富山県19.0%(全国5位)、全国8.6%)。
- 地域においても、子どもたちが同年代の仲間や大人たちと触れ合う機会が減りつつあり、人間関係の希薄化に伴う教育力の低下が指摘されていることから、地域ぐるみで見守り育て、子どもが安全で安心して活動できる環境づくりを進めることが必要となっています。

子どもの教育において家庭が役割を果たしていると思う人の割合

【全体】



【家族構成別比較】



資料：平成18年県政世論調査

取組みの基本方向

- 三世帯同居の割合が比較的高いという富山の長も活かしながら、子どもの成長を支える最も基本である家庭機能の回復と向上を図り、子どもの基本的な生活習慣づくりを推進します。
- 地域の子どもの地域で育てる意識の定着を図り、地域において魅力ある遊び場や子どもの居場所を確保するとともに、子ども同士がかかわり合い励まし合って、地域の人々とふれあい、豊かで美しい自然を体験するなど、多様な活動を促すことにより、子どもたちの心の豊かさや社会性を育てていきます。
- 地域ぐるみの広報啓発活動など、社会全体で心身ともに健全な青少年を育成していく取組みを進めます。

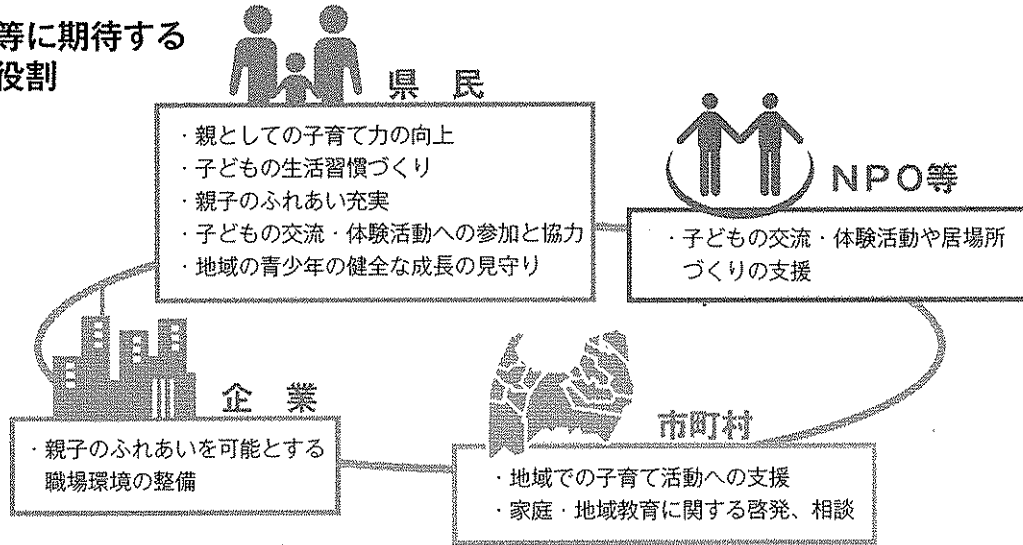
重点施策

重点施策	内 容
<p>① 家庭における 健やかな 成長の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早寝早起き、朝食の摂取等、望ましい生活習慣を身につけた元気な子どもを育てる運動の推進 ・子どもとのふれあいを深める親子自然体験活動、父親の会の活動等への支援 ・就学時や思春期における家庭教育講座など、子どもの発達段階に応じた接し方や家庭教育のあり方を見つめ直す親の学習機会の充実 ・親の役割について親が自ら学び、自信を持って子育てを行うための学習プログラムの作成と普及、家庭教育学習リーダーの養成および家庭訪問型支援の実施 ・多様な世代の人々が働く職場における家庭教育講座等の開催 ・親や子ども自身からの電話やメールによる相談対応の充実、親または親子へのカウンセリングの実施
<p>② 地域での 豊かな心の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館や余裕教室等を活用し、地域の人々の参画を得て進める遊び場の確保や勉強、スポーツ・文化活動、交流活動等の支援 ・青少年教育団体等による、子ども同士のふれあいを深め、とやまの自然を再発見させる体験活動の推進 ・三世代が一緒に行う地域探訪等、子どもから高齢者までの異世代間交流の促進 ・家庭を離れ、異年齢集団においての生活作業や遊び、自然体験、文化活動等とおした自主性や協調性、社会性の伸長 ・子育てサークルの相互連携の推進
<p>③ 社会全体による 青少年の 健全育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「とやま県民家庭の日」(※1)や「とやま家族ふれあいウィーク」(※2)の普及等、家族のふれあいを促進する幅広い活動の展開 ・青少年育成県民運動推進指導員の配置や心のふれあいあいさつ運動、広報啓発活動等の展開 ・有害図書等の指定や立入調査の実施等による有害環境の浄化 ・青少年健全育成ボランティア等の活動支援

(※1) とやま県民家庭の日：明るく楽しい家庭づくりのため、県民総ぐるみによる運動として、毎月第3日曜日を「とやま県民家庭の日」(愛称：とやまふれあいサンデー)と設定。

(※2) とやま家族ふれあいウィーク：県民・企業・学校・行政など県民総ぐるみで「とやま県民家庭の日」に関連した取組みの拡充を図るため、「とやま県民家庭の日」を初日とする1週間を「とやま家族ふれあいウィーク」として設定。

▶ 県民等に期待する
主な役割



子どもの居場所づくり(読み聞かせ)



親子自然体験活動(オリエンテーリング)



地域での子育て活動(ふるさと学習)



企業における家庭教育アドバイス講座

▶ 県民参考指標 (政策目標を具体的にイメージするための参考となる指標)

指標名及び指標の説明	おなご年刊	現況	平成27年度の姿	
<p>子どもの教育において、家庭が役割を果たしていると思う人の割合</p> <p>県政世論調査において、「最近の家庭は子どもの教育において役割を果たしている」と答える人の割合</p>	—	14.3% (H18)	増加させる	県民の意識に関わる数値のため、数値目標の設定が困難であることから、「役割を果たしていると思う県民の割合の増加」を目標とする。
<p>子どもの地域活動体験率</p> <p>学校の授業や行事以外での活動(地域の祭礼や清掃活動等)を体験した子どもの割合</p>	—	75.9% (H18)	80%	現況は、小・中学生が8割を超えているが、高校生が6割程度にとどまっており、今後高校生の体験率が高まるよう働きかける。
<p>放課後子ども教室等を実施している小学校区の割合</p> <p>県内全小学校区のうち、放課後子ども教室、放課後児童クラブ、とやまっ子さんさん広場のいずれかを実施している小学校区の割合</p>	—	87.8% (H18)	95%	へき地・小規模校を除く全小学校区での実施を目指す。

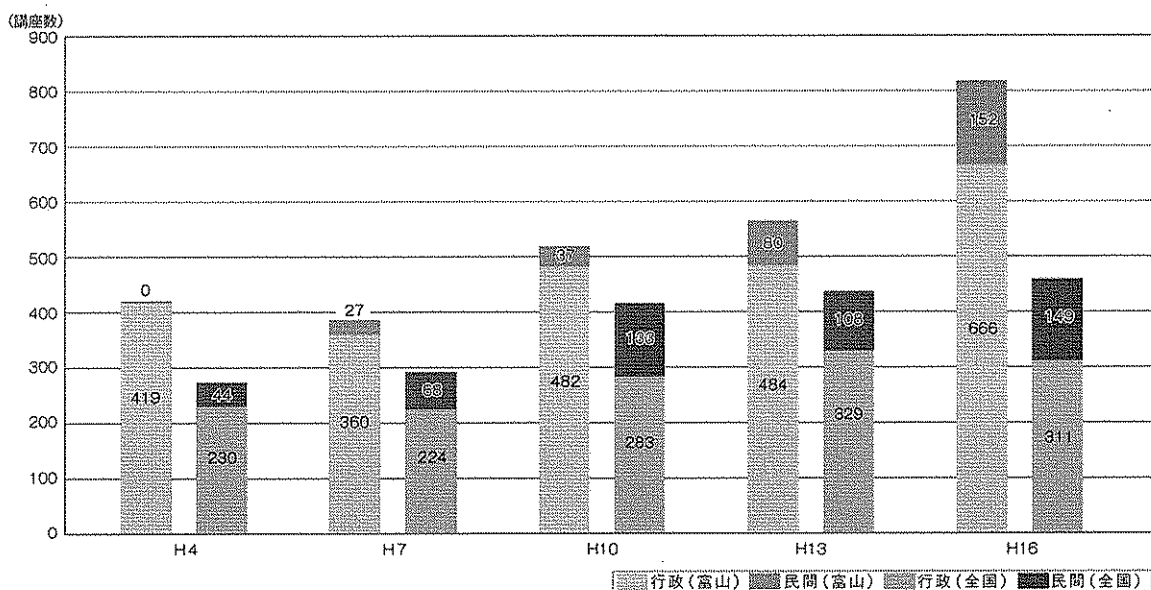
政策目標 (政策の目指すべき成果)

誰もが一人ひとりの目的、ニーズや社会の新たな課題に応じて、自由に学習の機会や場を選択して学ぶことができること。

現状と課題

- 高齢化や情報化、グローバル化の進展、価値観やライフスタイルの変化に伴い、自由時間を有意義に活用したいという意識が高まるとともに、県民の学習ニーズが拡大、多様化、高度化しています。
- 県民の学習意欲は全国的にも高く、これに呼応して、人口10万人あたりの県内講座開催数が818講座(H16、全国平均460講座)となるなど、幅広く学習機会が提供されるようになっていきます。
内訳を見ると、これまでは県・市町村等を中心に学習機会が提供されてきましたが、近年、民間事業者の開催講座数の増加が著しくなっており、また、ボランティア講師による講座開催が増えつつあります。このように、生涯学習については、基本的に行政主導による学習機会の提供から、県民が主体的に参画し、学習活動する形態へと移行しつつあります。
- これまで学習機会が少なかった働き盛りの世代、子育て中の世代のニーズに応え、さらに、ニート・フリーターなどの若者の自立を支援する面からも、多様なメディアを活用した在宅学習の充実が求められています。また、今後、団塊の世代が退職時期を迎え、学習意欲旺盛な県民の増加が見込まれることから、生きがいつくりにつながる新たな学習機会の充実が求められています。

生涯学習講座数の推移 (富山県と全国平均の比較)



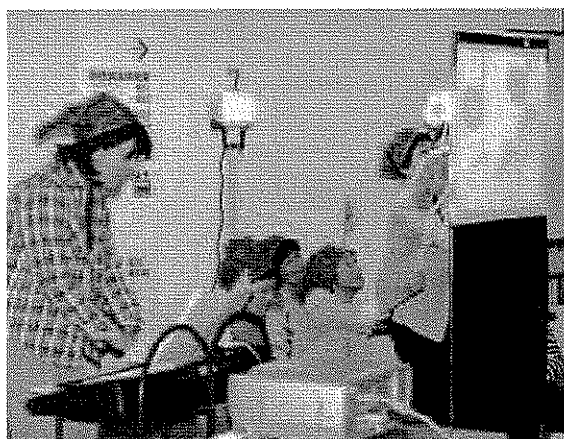
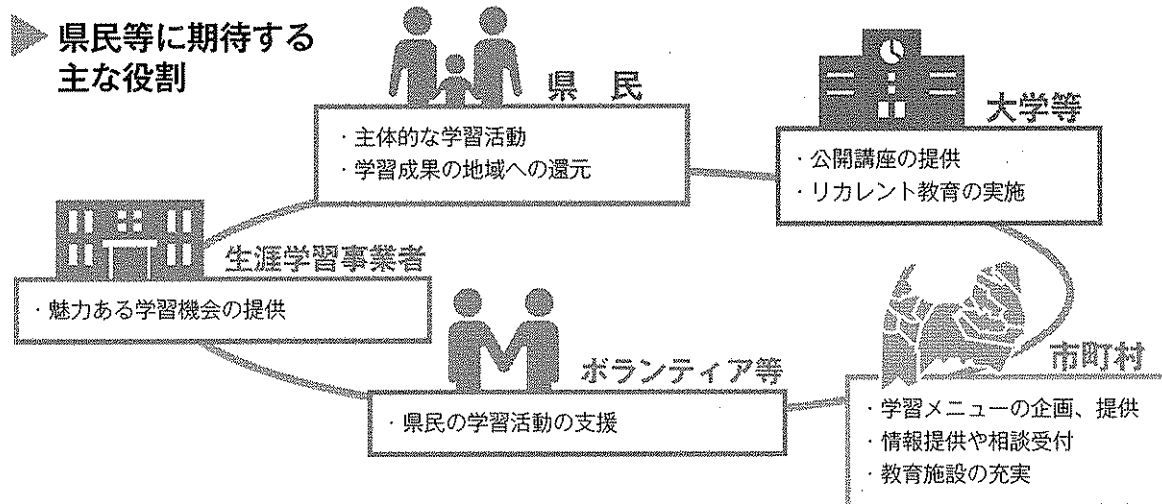
取組みの 基本方向

- あらゆるライフステージにおいて県民一人ひとりが多様な学習機会を享受し、自己実現を図るとともに、学習の成果が地域ボランティアの活動など地域社会に活かされる環境づくりを進めます。
- 生涯学習に関わる大学・民間事業者・行政などの相互の適切な連携や、ボランティア活動の推進を図り、県民の主体的、自発的な学習活動を促していきます。

重点施策

重点施策	内容
① 多様な 学習活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット、CATVなど多様なメディアを活用した在宅学習機会の普及 ・図書館の機能を活かす読み聞かせ講座等の開催や、公民館での地域に密着した講座・教室の開設など教育施設を活用した学習機会の充実 ・大学等における一般県民を対象とする公開講座等の充実支援 ・看護師や保育士、企業の技術者などの専門職を対象とする大学等の講座・セミナーの充実支援 ・学習の成果を活かしたボランティア活動(自遊塾におけるボランティア講師など)や地域活動の推進
② 県民の学習を 支える基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ・とやま学遊ネットなどインターネットを利用した学習情報の収集、提供と図書館のレファレンス機能の充実 ・市町村・大学・民間事業者等と連携した学習サービス向上と相互協力 ・自主的な学習グループの育成と相互ネットワークづくりの支援 ・県民が自主的に学習活動を行う日の設定や、市町村等との連携による生涯学習啓発活動、団塊世代の一日講座体験等の実施 ・熟年世代や女性など幅広い人々を対象とする、県民の学習活動を支えるボランティアやリーダーの育成
③ キャリアを磨く 実践的な学びの 推進	<ul style="list-style-type: none"> ・大学等への社会人受入れなどリカレント教育(※)の推進 ・職業生活の各段階に応じた自発的な能力開発の支援 ・専修学校等におけるキャリア教育に対する支援

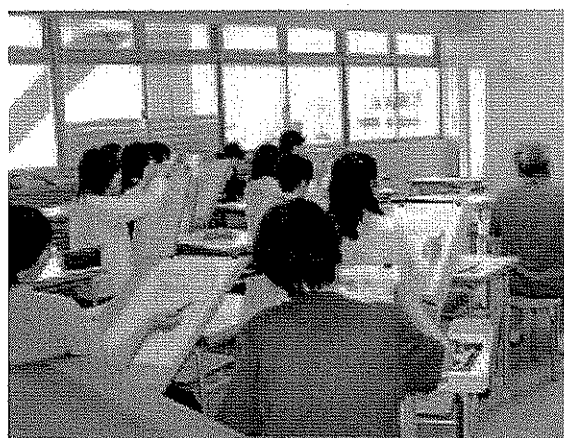
(※) リカレント教育：一度社会に出た者が学校等で再び学べるようにするなど、生涯にわたって教育の機会を得ることができるよう働くことと学ぶことが結びついた教育システム。



講座での学びの成果の発表
(自遊塾：カラー影絵講座)



高齢者の介護手法の受講
(暮らしの知恵を学ぶ生涯学習講座)



高校生と共に学ぶデッサン
(特別講座：デッサン入門)



学習相談
(夏季講座の申込、受講案内等)

▶ 県民参考指標 (政策目標を具体的にイメージするための参考となる指標)

指標名及び指標の説明	概ね5年前	現況	平成27年度の姿	
<p>1年間に生涯学習を行ったことがある人の割合</p> <p>県政世論調査において「過去1年間に文化・スポーツや趣味・教養などの学習活動を行ったことがある」と答える人の割合</p>	—	28.3% (H18)	35%	<p>学習意欲旺盛な熟年世代の増加や生涯学習を支えるボランティア人材の育成等による効果を見込み、概ね1/3程度への増加を目標とする。</p>
<p>生涯学習の人口10万人あたり年間開催講座数(うち民間講座数)</p> <p>県・市町村、民間などによる生涯学習講座の1年間における開催講座数(人口10万人あたりに換算)</p>	519講座 (37講座) (H10)	818講座 (152講座) (H16)	900講座 (300講座)	<p>これまで県・市町村の講座が中心であったが、学習ニーズの増大・多様化に対応し、民間の講座数が引き続き伸びるものと見込む。</p>
<p>県内高等教育機関の大学院における社会人の数</p> <p>大学院在学者のうちの社会人の数</p>	207人 (H13)	169人 (H18)	200人	<p>近年減少傾向にあるが、各大学院の積極的な姿勢に期待し、5年前の水準への回復を目指す。</p>

新たな生涯学習時代に対応した県民カレッジのあり方

(報 告 書)

平成19年3月

県民カレッジあり方検討会

1 はじめに

本県生涯学習の中核機関である富山県民生涯学習カレッジ（以下「県民カレッジ」という）は、昭和 63 年の開学以来、生涯学習情報提供システム「とやま学遊ネット」の運用や受講者が自主的に運営する「自遊塾」※1の開設等、広域的で先進・先導的な生涯学習事業を実施し、県内外から高い評価を得てきたところである。また、県内の公的機関、大学等との講座の連携を強化するとともに、学習情報の収集・提供、学習相談、学習の奨励・支援、調査研究などの事業を幅広く展開してきた。

しかし、近年、少子高齢化やIT化の進展に加えて、市町村合併や民間等の生涯学習事業の充実など、県民カレッジ設立の時と比べ、社会情勢が大きく変化している。また、中央教育審議会生涯学習分科会において、地方公共団体の役割について、「市町村が身近な行政機関として、地域住民等と協力して生涯学習を主体的に実施し、都道府県は市町村を包括する広域の公共団体として、広域連携の機能の強化を図る」等の提言がなされた。このようなことから、これまでの県民カレッジを見直し、県の生涯学習事業の方向性等を踏まえながら、今後の県民カレッジのあり方を検討することとなった。

本検討会では、学識経験者、関係行政機関の職員、生涯学習実践者及び経済界関係者等のそれぞれの立場から、今後の県民カレッジのあり方について検討を重ねた。

これまで4回の検討会を開催し、その間、各委員が議論を重ね、審議を行った。また、検討会を公開するとともに、議事録等をホームページ上に掲載するなど透明性の確保に配慮した。

このたび、今後の県民カレッジのあり方について、意見をとりまとめるに至ったので、ここに報告する。県教育委員会においては、この報告書を活用し、生涯学習県とやまの特徴を十分勘案しつつ、新たな生涯学習時代に対応した県民カレッジを目指し、ボランティア指導者の育成など具体的な取組みを進められることを期待する。なお、生涯学習の分野においても、新しい「公共」※2の観点に視点を向けることが必要との提言や教育基本法に「生涯学習の理念」が盛り込まれたことなど環境の大きな変化等を考慮して、「新たな生涯学習時代に対応した県民カレッジのあり方」と題した報告書を作成した。

※1 ボランティア指導者である県民教授と塾生（受講者）が、自主的に講座の運営を行うシステム。

※2 これまでの、ともすれば行政に依存しがちな発想を転換し、個人やNPO等の団体が社会の形成に主体的に参画し、互いに支え合い、協力し合うという互惠の精神。

（中教審生涯学習分科会：今後の生涯学習の振興方策について（審議経過の報告）（H16.3）より）

3 見直しの基本的な視点

これまで県民カレッジは、県民カレッジ本部と3地区センター体制による先導的・広域的な生涯学習サービスの提供を県民に行ってきた。また、県民カレッジでは、県生涯学習団体協議会の育成・支援や自遊塾の開設など、県民が自主的に活動できる仕組みを整えるなど、今日の県の生涯学習の高いレベルを支えてきたところである。

しかし、市町村合併による生涯学習推進体制の変化や県内で開設される民間や高等教育機関が実施する生涯学習講座の多種・多様化など、県民カレッジを取りまく環境が大きく変わり、提供する講座内容の見直しが必要となっている。

さらに、パソコンの普及により、手軽に家庭で映像制作・編集ができるようになったことや市町村などでのボランティア指導者のニーズの増加などにより、映像関係講座のあり方の検討、ボランティア指導者の育成の必要性などのさまざまな課題が見られるようになった。

また、これまでの、ともすれば行政に依存しがちな発想を転換し、個人やNPO等の団体が社会の形成に主体的に参画し、互いに支え合い、協力し合うという互恵の精神である新しい「公共」の観点に視点を向けることが、生涯学習の分野でも必要とされている。

これらのことを踏まえ、新たな生涯学習時代に対応していくため、県民カレッジのあり方を見直していくことが必要である。

県民カレッジの見直しにあたっては、生涯学習県とやまの特徴を十分勘案し、以下の5点を踏まえながら、県と市町村、高等教育機関等、生涯学習サービスを提供する機関が連携して、県民へのサービスがさらに向上・充実する新しいシステムの構築を目指していくことが必要である。

- ① 県民カレッジにおいては、生涯学習機関の情報提供の状況や県民のニーズに対応した学習情報の収集や提供を行う。
- ② 県民カレッジの事業については、教養的な講座を実施するだけでなく、これからの生涯学習を担う県民による講師やボランティアを育てる人材育成事業の充実を進める。また、魅力ある講座の開設に努めるとともに、適切な受講者負担を進める。
- ③ 映像センターは、富山の貴重映像などを広く利活用できるライブラリーへの移行を進める。
- ④ 県民が学習成果を生かすことができる仕組みをさらに充実し、生涯学習団体やボランティアへの支援を進める。
- ⑤ 事業の段階的な見直しにあわせて、組織体制を検討する。

4 県民カレッジのあり方

(1) 事業について

(ア) 学習情報の収集・提供、学習相談

- ・インターネットの利用に慣れない高齢者等から、活字媒体による生涯学習情報の提供を望む声もあることから、市町村、高等教育機関等と連携し、インターネットによる情報提供のほか、学習情報誌による提供を検討するなど、県民のニーズに合わせたわかりやすい学習情報を幅広く伝えるよう努めるものとする。
- ・インターネットを利用する学習情報提供システム「とやま学遊ネット」の利用者数は年々増えている。しかし、初心者や高齢者には使いにくい機能を有しているとの指摘があるため、利用状況や他府県の状況を考慮し、利用者ニーズが多い機能など必要な機能に精選化を図る方向で検討していくものとする。
- ・市町村生涯学習機関においては、地域住民と協力して生涯学習を主体的に実施することが期待されている。このことを考慮して、地区センターにおける学習情報の提供や学習相談体制については、市町村生涯学習体制の状況などを踏まえ、適切にその役割を担うものとする。

(イ) 学習機会の提供

- ・県民カレッジの事業は講演形式の教養的な講座が中心の「講座提供型」から、自遊塾に見られるような「自ら学び、自らが講師となったりボランティアとして参加する事業」に重点を移していくものとする。このため、今後、これからの生涯学習を担うボランティア指導者等の人材育成を支援する「人材育成型」事業の充実も図るものとする。
- ・最近、市町村や高等教育機関だけでなく、民間等の機関や施設においても特徴を活かした多彩な講座が開設されるようになり、その受講者も大幅に伸びている。このことから、主催講座については、県民が自ら学んできたテーマに基づいて、講座を企画運営し、共に学びの場を作り出す講座など魅力と特色を持つ講座や他ではできない県独自の講座を提供していくものとする。
- ・受講料については、高等教育機関等と比較して、県民カレッジが安価で講座を提供していることから、他県や県内の各機関等の負担状況も考慮し、適切な受講者負担の検討をすすめ、また、学習サービスの受益者として、受講者負担に対する理解が進むように努めるものとする。
- ・県民カレッジ単位制度については、単位そのものは学習者個人の励みであり、単位数を競うために学習しているのではないことから、県民カレッジで単位

数等を入力する一括管理方式から受講者が自らの単位を管理するしくみに移行していくものとする。

- ・富山インターネット市民塾については、働き盛りや子育ての世代など幅広く利用者が期待できる先進的な在宅学習であるため、県民への広報を引き続き行うものとする。

(ウ) 映像センター

- ・近年のIT化の進展により、映像制作・編集が可能となってきたパソコンやオーディオ・ビジュアル機器が一般家庭に普及したため、映像制作・編集講座については、利用者ニーズを把握し、講座の精選など見直しを図るものとする。
- ・映像センターがこれまで収集した富山の貴重映像や県民から寄せられる映像などの映像ライブラリーについては、著作権に留意しつつ、学校などでの利用を促進するとともに、広く県内外にケーブルテレビなどで富山県を紹介する広報にも用い、多くの県民が利活用しやすくなるような手だてを検討していくものとする。

(I) 学習成果の発表や交流、団体・ボランティアへの支援

- ・学習成果を活かし、受講者が教える側の講師となる自遊塾県民教授などの現在活動しているボランティア指導者に対しては、今後は、市町村等の機関とも連携して、新たな活動の場の紹介・提供などの支援を充実していくものとする。
- ・県民カレッジでは、年々ボランティアに携わる人が減少傾向であることや豊富な知識と高い技能を持つ団塊の世代等の活用を考慮し、県民の学習活動を支える新たな生涯学習ボランティア指導者等の人材の育成支援に努めるものとする。
- ・生涯学習団体や学習グループ等については、一層自主的な学習活動を支援するため、学習グループのリーダー育成や生涯学習団体等の運営に関する相談などを行っていくものとする。
- ・市町村等と連携体制を強化するため、学習成果の発表・活用や文化祭などのような交流しやすい機会を設ける等の取組みを推進していくものとする。

(2) 組織及び予算について

- ・県民カレッジの事業については、生涯学習における県民のニーズの動向等を踏まえ、段階的に見直しを進めるものとする。県民カレッジ本部と各地区センターの連携については、事業での連携はもちろん、学習情報誌の統一、広報での協力、学習情報の提供などにおいて、これまで以上に協力体制を強化していくものとする。組織体制については、事業の実施状況に応じた体制を検討していくものとする。
- ・地区センターにおいては、高校の授業を受講する特別講座や学習成果の発表会に社会人の参加が進んでおり、異なる世代が幅広く学習・交流する新しい形の学びの施設となっている。このように、その地域の生涯学習の推進に重要な役割を担っていることを踏まえ、今後の役割・機能を検討していくものとする。

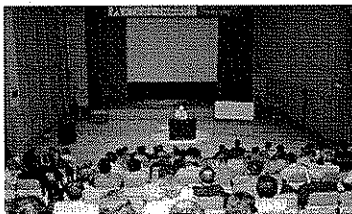
(3) 今後の県民カレッジの運営にあたって

- ・県生涯学習団体協議会、県民カレッジ友の会「雷鳥会」、自遊塾県民教授会や県民カレッジを支えているボランティア「カレッジメイト」の方々などの関係団体等ともより一層連携し、市町村、高等教育機関などの生涯学習講座提供機関とも連携を深めて、今後の県民カレッジの運営形態も含めた協力体制の構築をすすめることが望まれる。
- ・講座修了者の意見や感想だけでなく、今まで講座の受講が少なかった世代を含む県民全体を対象としたアンケートやメール等による意見募集などを通じて、県民のニーズの把握に努め、県民に評価される生涯学習サービスを提供することが望まれる。

平成19年度 はつらつ学びのリーダー育成事業

【趣 旨】

団塊・シニア世代を中心に、県民の学習活動を支えるボランティア指導者を発掘するため、その知識や技能を習得する機会を提供するとともに、県内市町村や各種団体などとも連携・協力し、より多くの県民の生涯学習参画や社会貢献を支援する。



「はつらつ特別講演会」



「第1回育成セミナー」



「育成セミナー」から

【概 要】

1 「はつらつ特別講演会」の開催 (定員 300名)

- 一般県民を対象として、生涯学習・地域活動への理解を深め、社会参画を促す。
- ・ 講演テーマ 「地域があなたを待っているー受け身の学びから社会参画へー」

2 「はつらつ学びのリーダー育成セミナー」の開催 (定員 60名)

- ボランティア指導者としての基本的な知識と技能習得を支援
- ・ 基礎セミナー (5回) 「富山県の生涯学習を知ろう」「ボランティアの喜びを感じよう」「コミュニケーションの技法を学ぼう」「自分の適性を確認してみよう」「コース別プレ研修に出かけよう」
- ・ コース別セミナー (3回) 「地域デビューの準備をしよう」
- 演習中心 …… ・ 自主講座講師コース (屋内系、野外系)
(6コース設定予定) ・ 団体サークルリーダーコース (屋内系、野外系)
・ 施設ボランティアコース (美術館・博物館、県民カレッジ)
- ・ 実地体験 (1月～3月、月1回程度) 「現場に触れてみよう」
(4月～9月、随時) 「ボランティア活動体験をしてみよう」
- ・ 認定式 (10月) 学遊祭で認定証授与

3 「はつらつリーダー研修会」の開催 (参加予定数 80名)

- 「はつらつ学びのリーダー育成セミナー」受講者が、ミニ活動体験を通して各自の力量を高めつつ、各市町村とのつながりを持ち、次年度以降の活動につなげるとともに、県内各地のボランティア指導者らと意見交換・情報交換を行うことで、本県生涯学習の更なる振興の契機とする。
- ・ パネルディスカッション…… (基調講演・事例発表・ディスカッション)
(大学教授、研修会参加者、コーディネータ1名/パネリスト3名)
「学びの輪を広げよう～地域づくりのために私たちにできること～」
- ・ ミニ活動体験…… (交歓会・活動発表・合評会)
(セミナー受講者)
- ・ 明日に向かって宣言
(セミナー受講者)

「はつらつ学びのリーダー育成セミナー」実施について（中間報告）

1, 受講者総数：39名

(内訳) 個人受講 : 富山市10名、高岡市4名、射水市4名、滑川市3名、
 (32名) 立山町3名、魚津市2名、氷見市2名、南砺市2名、
 黒部市1名、砺波市1名
 市町村推薦 : 富山市4名、射水市2名、滑川市1名
 (7名)

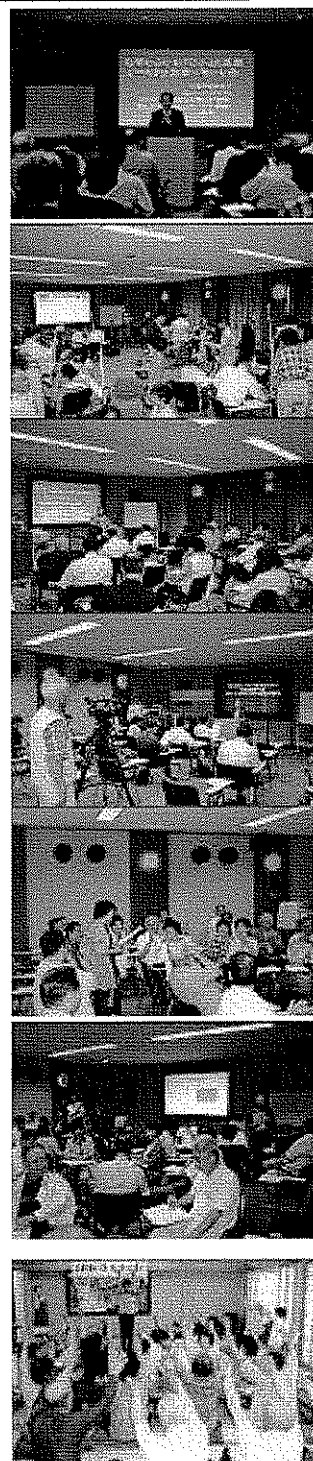
2, 受講状況:

月 日	6/29	7/13	8/24	9/7	7~9月	10/6	11/17
受講者数	37名	32名	31名	35名	39名	34名	32名

3, 講座内容:

基礎セミナー

- 第1回 ①オリエンテーション . . . 学習専門員
 6/29 セミナーの狙いと進め方、
 ②講話「富山県の生涯学習について」 . . . 中西学長
 県民カレッジの仕組みと広域学習圏
 富山生涯学習のあゆみとゆくえ
 ③演習「グループエンカウンター」 . . . 佐藤先生
 リラックス、出会い、自己紹介・他者紹介、
 仲間との活動、活動の振り返りなど実践
- 第2回 ①講話「生涯学習ボランティアの役割」 . . . 種谷先生
 7/13 生涯学習・ボランティアの定義と誕生背景
 生涯学習方法の種類、展開、リーダーの分類・条件
 ②仮コース別演習「活動の喜び」
 人が集まる講座づくり、講座運営(10名) . . . 加藤先生
 意欲の芽生え、励み、交流の喜び(16名) . . . 村上先生
 ボランティア活動の心構え8条 (6名) . . . 倉林先生
- 第3回 ・講話&演習「コミュニケーション能力を高める工夫」
 8/24 . . . 経田先生
 コミュニケーションとは(言語・非言語)
 人の考えを理解する3つのチャンネル
 感情の指向性・選択性、肯定的感情表現の重要性
- 第4回 ・講話&演習「自己認識・他人理解」 . . . 飯田先生
 9/7 ジョハリの窓体験交流を通しての自己認識
 自己成長エゴグラムによる適性診断
 自分の進む道を選択する際の観点
- 第5回 ・仮コース別プレ研修(現場見学会)
 7月末~9月末 . . . 各生涯学習ボランティア指導者
 自主講座は自遊塾講座見学
 団体・サークルは生涯学習団体協議会表彰団体等見学
 ボランティアは外部機関のボランティア説明会参加



コース別セミナー

第6回

10/6 <屋内系自主講座講師コース> (13名) . . . 永田先生

①講話「講座の企画・立案」

現状分析、問題把握、講座の狙い、講座各回の構成

②演習「講座全体プラン作り」

<屋内系団体サークルリーダーコース> (11名) . . . 柳原先生

①講話「団体・サークル発足に向けて」

組織作りのノウハウ、年間計画の立て方、規約作り

②演習「組織立ち上げのプラン作り」

<野外系リーダーコース> (3名) . . . 加藤先生

①講話「講座企画、野外活動の団体作り」

現状分析、目標設定、資金・規則作り、年間スケジュール

②演習「プラン作り」

<県民カレッジボランティアコース> (4名) . . . カレッジ職員

・「メニューブック作成について」概要説明、計画、役割分担

<3館ボランティアコース> (3名) . . . 立山博物館講師

・立山博物館での講習会受講

第7回

11/17 <屋内系自主講座講師コース> (12名) . . . 澤井先生

①講話「講座の運営・展開」

講座各回の効果的な導入・展開・まとめ

②演習「講座各回の具体的プラン作り」

<屋内系団体サークルリーダーコース> (10名) . . . 柳原先生

①講話「組織維持・拡大の課題と対応」

後継者作り、マンネリ化の打開、その他の問題点と対応

②演習「ケーススタディー」

<野外系リーダーコース> (3名) . . . 岡岸先生

①講話「野外講座の展開、団体運用時の課題」

飽きさせない講座展開、組織運用上の留意事項

②演習「プラン作り、ケーススタディー」

<県民カレッジボランティアコース> (4名) . . . カレッジ職員

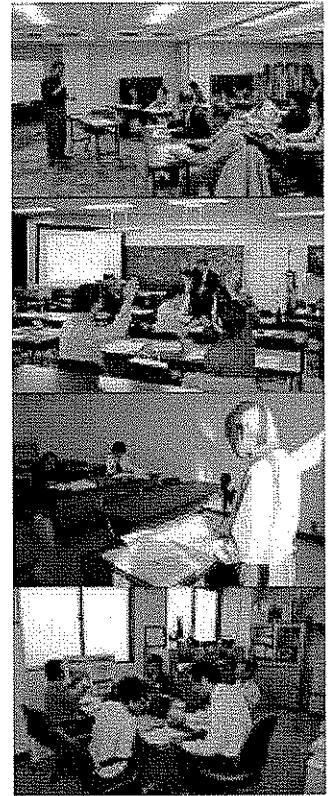
・「県民カレッジ連携講座実施機関への取材」

<3館ボランティアコース> (3名) . . . 立山博物館講師

・立山博物館での講習会受講

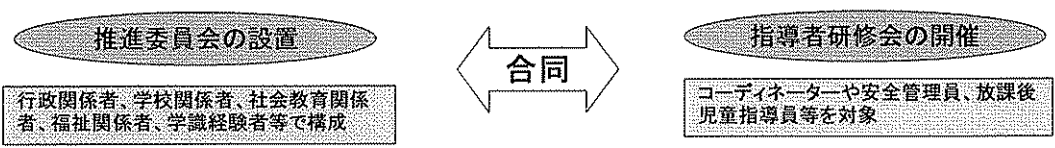
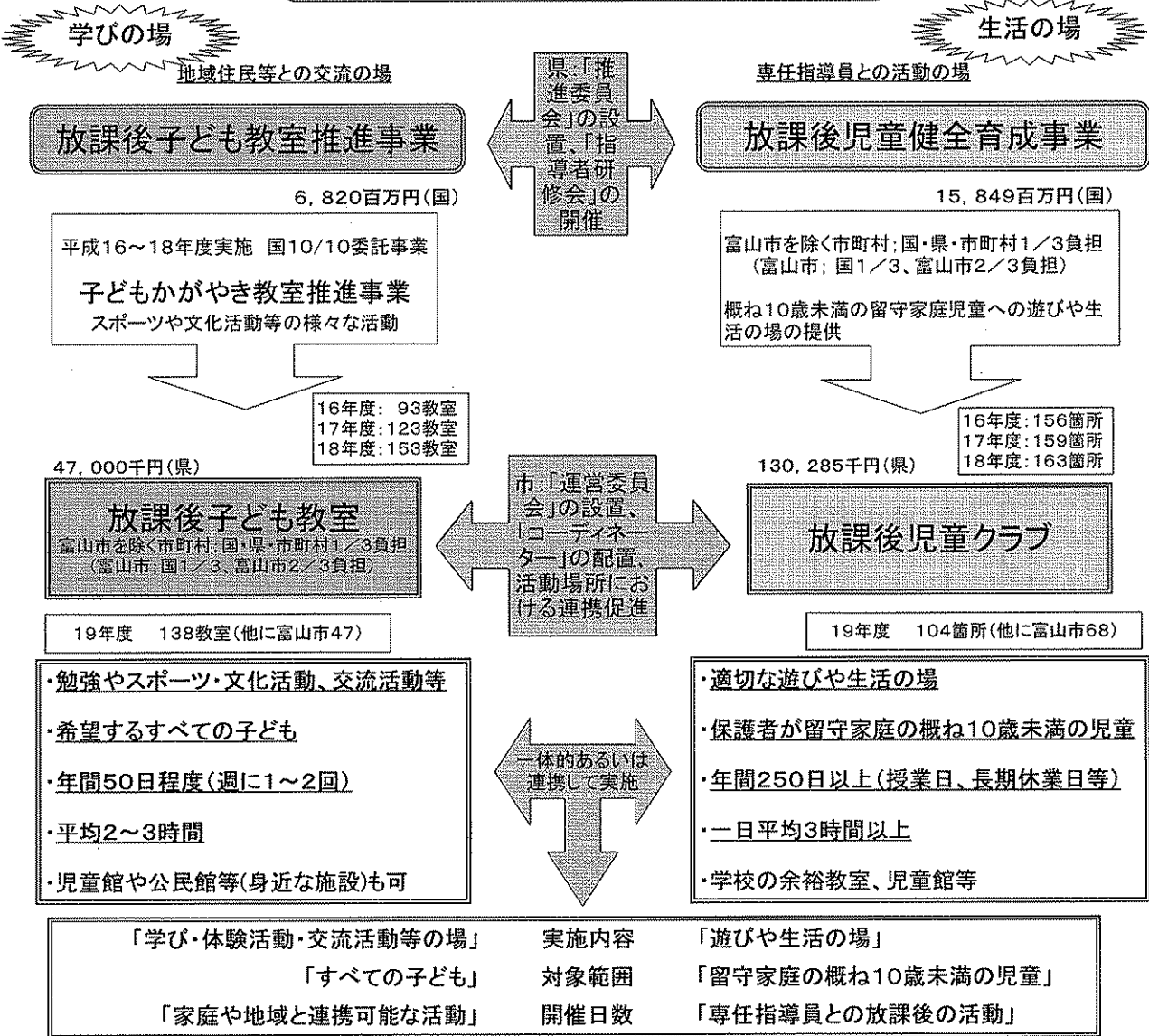
4. セミナー受講者の感想：

- ・ 県の期待の大きい事業と聞き、身の引き締まる思いがした。頑張りたい。
- ・ ボランティアの初心を忘れず、「継続は力なり」との考えから、よい出会いを求めてボランティアの喜びを大切にしていきたい。
- ・ 講師の助言や資料は講師の体験から生まれたもの。指針や目標として役立つ。
- ・ 肯定的感情を持つことがコミュニケーションスキルアップにつながることを体験した。
- ・ これまでの講義も今日の講義も全てはじめての体験です。勉強になりました。
- ・ 自分の思いや願いが具体的なものにつなげそうな講座内容で良かった。ためになった。
- ・ 講師の先生はいきいきはつらつ元気いっぱい楽しかった。
- ・ 自分の知っている範囲でのシミュレーションは作りやすいが、運営は大変だと思う。
- ・ 実際に発表を行う、講座を開設する場合の具体化・具現化の大切さ、難しさを実感。

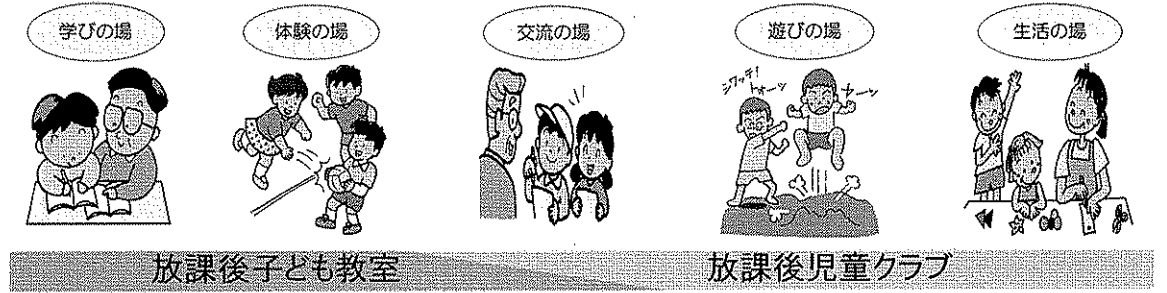


放課後子どもプラン

総合的な放課後対策(実施主体:市町村)



- A 平日に放課後児童クラブを実施し、週末に放課後子ども教室を実施する。(分担型)
- B 放課後子ども教室終了後、放課後児童クラブに所属する者は、放課後児童クラブに参加する。(連結型)
- C 放課後児童クラブの参加者が、その日の放課後子ども教室の内容によって参加を選択する。(選択型)
- D あらかじめ申し込んであるそれぞれの事業に参加する。(分割型)



新放課後子ども教室推進事業

生涯学習・文化財室

1 事業の趣旨

放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、地域の方々の参画を得て、子どもたちの勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等を推進する。

2 事業費

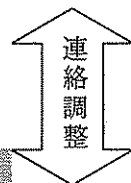
47,000千円

3 事業内容

「放課後子ども教室推進事業」は、平成18年度まで実施してきた「子どもかがやき教室」を拡充するものであり、従来の体験活動や交流活動等に加え、学ぶ意欲のある子どもたちに対して学習アドバイザーが指導する学びの場を提供することとしている。

(1) 市町村事業(放課後子ども教室推進事業補助金：45,000千円)

- ①対象 希望するすべての子ども
- ②時間 平日の放課後、休日、夏・冬休み等
- ③場所 学校の余裕教室、公民館、児童館等
- ④その他 コーディネーターの配置
安全管理員、学習アドバイザーによる指導



コーディネーター

平成19年度事業「放課後子ども教室」

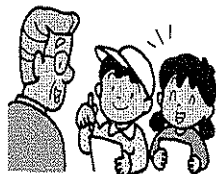
平成16～18年度事業「子どもかがやき教室」

体験の場



- ・ドッジボール
- ・木工、手芸など

交流の場

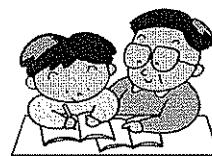


- ・読み聞かせ、地域めぐり
- ・三世代交流など



安全管理員

学びの場



- ・算数教室、英会話
- ・予習、復習など

学習アドバイザー

(2) 県事業(教育委員会と厚生部が連携：2,000千円)

- ・推進委員会の設置(行政、学校、福祉や社会教育の関係者、有識者等で構成)
- ・指導者研修会の開催(コーディネーターや安全管理員、放課後児童指導員等を対象)

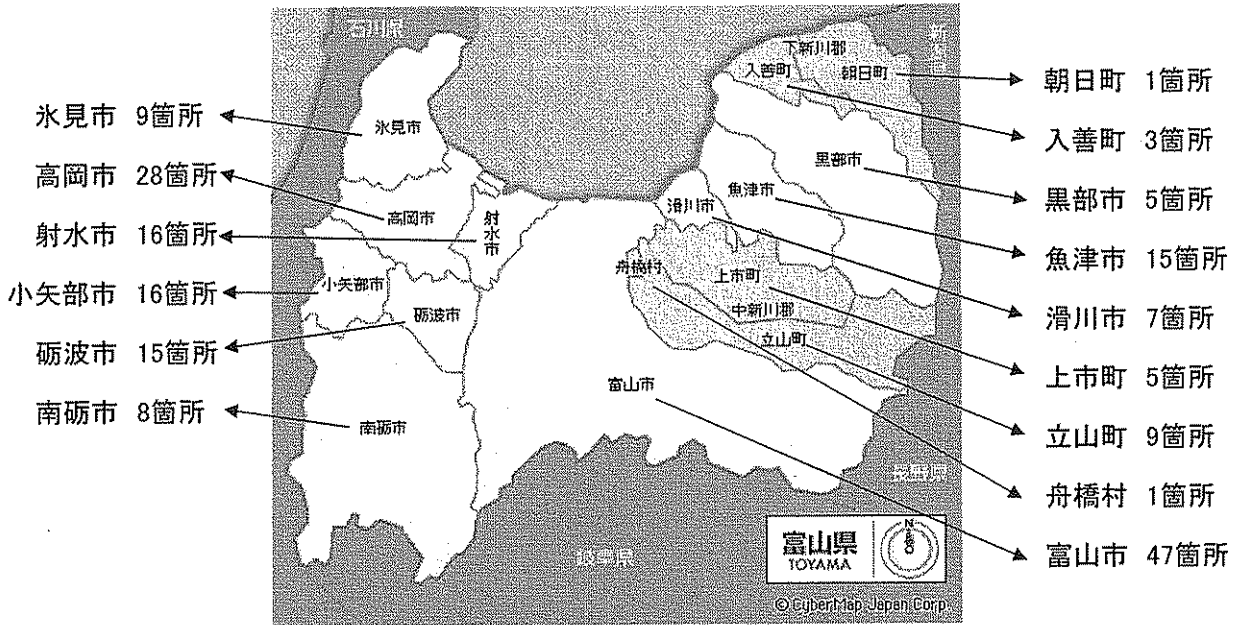
4 事業の実施予定(県内205小学校中)

実施予定教室 185教室(富山市47教室、その他の市町村138教室)

実施予定校 164校(富山市47校、その他の市町村117校)

平成19年度 放課後子ども教室推進事業

「放課後子ども教室推進事業」は、平成18年度まで実施してきた「子どもかきやき教室」を拡充するものであり、従来の体験活動や交流活動等に加え、学ぶ意欲のある子どもたちに対して学習アドバイザーが指導する学びの場を提供することとしている。



・ 放課後子ども教室(全市町村において、185教室の開催)
 県内205小学校中、164校にて実施 実施率80%

・ 9市町において、学びの要素を取り入れた教室を展開

高岡市(20/28) ・定塚小学校ほか19 ・学習会、習字等	氷見市(9/9) ・朝日丘小学校ほか8 ・読み聞かせ、英会話等	滑川市(2/7) ・東加積小学校ほか1 ・読み聞かせ、茶道等
砺波市(14/15) ・庄下公民館ほか13 ・合唱、野菜栽培等	小矢部市(15/16) ・東蟹谷公民館ほか14 ・郷土めぐり、英会話等	南砺市(6/8) ・平小学校ほか5 ・運動指導、料理等
上市町(5/5) ・宮川小学校ほか4 ・運動指導、工作等	立山町(9/9) ・立山北部小学校ほか8 ・読み聞かせ、工作等	朝日町(1/1) ・あさひ野小学校 ・英会話、工作等

地域の教育力の向上へ

地域活力再生公民館事業（県単：1,000千円 国委託：6,558千円）

【趣旨】

公民館を中心として、交流活動、体験活動や地域の様々な課題の解決に取り組む活動等を通じて、地域のきずなづくりを促進する。

【概要】

- (1) 広報啓発活動…1,000千円（県単）
 - ・啓発用ポスター、チラシの作成・配布
 - ・各地域で実施された活動をもとに実践事例集を作成・配布
- (2) 地域のきずなを深める活動…6,558千円（国→県運営協議会委託）
 - ① 県運営協議会の設置
 - ② 公民館を中心とした地域のきずなを深める活動の実施
 - ・地区公民館単位：11ヶ所
 - ・県公民館連合会

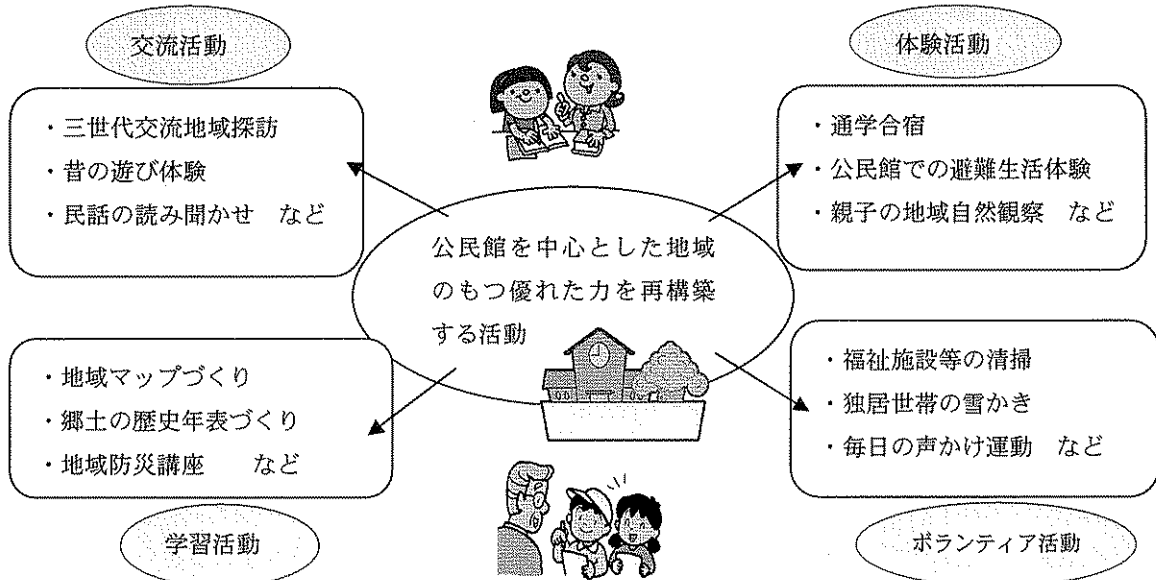
広報啓発活動

【実施主体：県】

啓発用ポスター・チラシ、実践事例集の作成、配布

活力ある地域づくり活動（地区公民館単位）

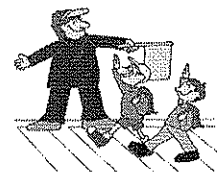
【実施主体：市町村実行委員会】



国委託「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業

活力ある地域づくり活動（県公民館連合会）

- ◆ 富山県公民館大会の開催
 - ・基調講演
 - ・地域実践活動報告
- ◆ 「公民館ガイドブック」の作成



平成19年度 国委託「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業 実施状況 【富山県地域活力再生公民館事業】

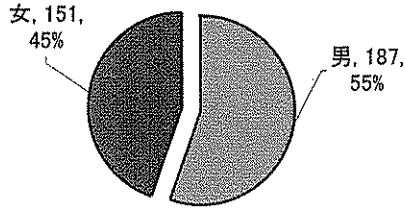
市町村	区域	実行委員会名	活動内容
1 富山市	富山地区	富山地区地域活力再生実行委員会	防災学習会、ガイドブックの作成
2 富山市	水橋地区	水橋地区地域活力再生実行委員会	地域理解学習会(明治～昭和の生活用品と風俗・風景写真展ほか)ふれあい交流活動(三世代交流、スポーツフェスティバル)
3 射水市	新湊地区	新湊地区地域資源活用実行委員会	地域資源学習会及び調査・研究(獅子舞、史跡、曳山、漁業)、三世代交流地域探訪
4 魚津市	大町・天神地区	魚津市地域づくり実行委員会	地域探訪、地域マップづくり、地域歴史イベント(米騒動)、伝統工芸・料理教室
5 滑川市	滑川市内	滑川市地域活力再生実行委員会	地域ふれあい自然観察会(初夏の立山、樽池高原、盛夏の立山、秋の星空)
6 砺波市	太田地区	太田地区地域のきずなづくり実行委員会	地域ものしりマップづくり、三世代交流地域探訪、自然体験活動(赤米づくり、庄川で遊ぼう)
7 砺波市	鷹栖地区	鷹栖地区地域のきずなづくり実行委員会	清掃ボランティア、歴史マップづくり、防災学習会、愛の一声運動
8 砺波市	林地区	林地区地域のきずなづくり実行委員会	くらしの知恵袋学習会(昔の遊び道具、ロープワーク)、伝統食文化(そば打ち、寒もちづくり)一目でわかるふるさとナビまっぷづくり
9 小矢部市	藪波地区	藪波地区地域活性化実行委員会	河川実態調査(藪波川の観察、ホテルの幼虫観察、小矢部川の源流探訪)清掃ボランティア、川に関する学習会
10 南砺市	福野地区	福野地区地域のきずなづくり実行委員会	異世代交流会(行灯づくり、川の源流を訪ねて、竹細工づくり、水の探検、歩こう会、郷土の歴史学習)
11 南砺市	井波地区	井波地区地域のきずなづくり実行委員会	地域ふれあい活動(立山登山、野外観察、親雪ハイキング)
12 入善町	入善町内	入善町地域活力再生実行委員会	環境保護ボランティア(観音祭礼後清掃、舟見セタ祭礼後清掃、みんなで守ろう杉沢の沢スギ)
県	富山県地域活力再生運営協議会		運営協議会の開催、啓発チラシの作成、実績報告書の作成

国への申請額 計6,558千円

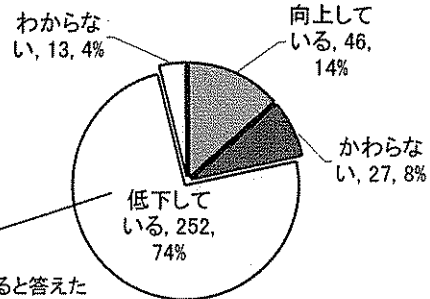
アンケート集計結果(総計)

期日 平成19年11月17日現在
回答数 338名

性別



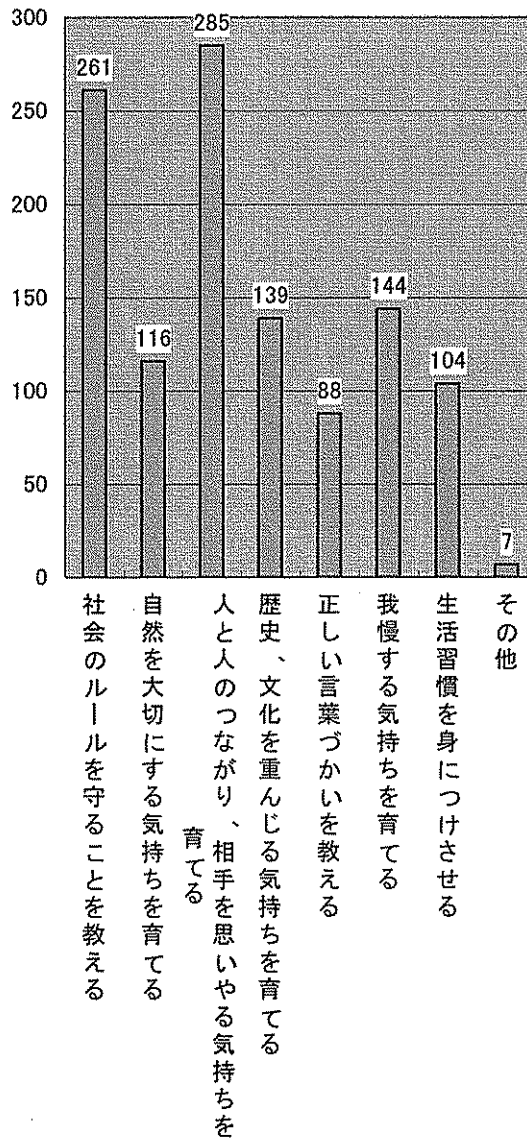
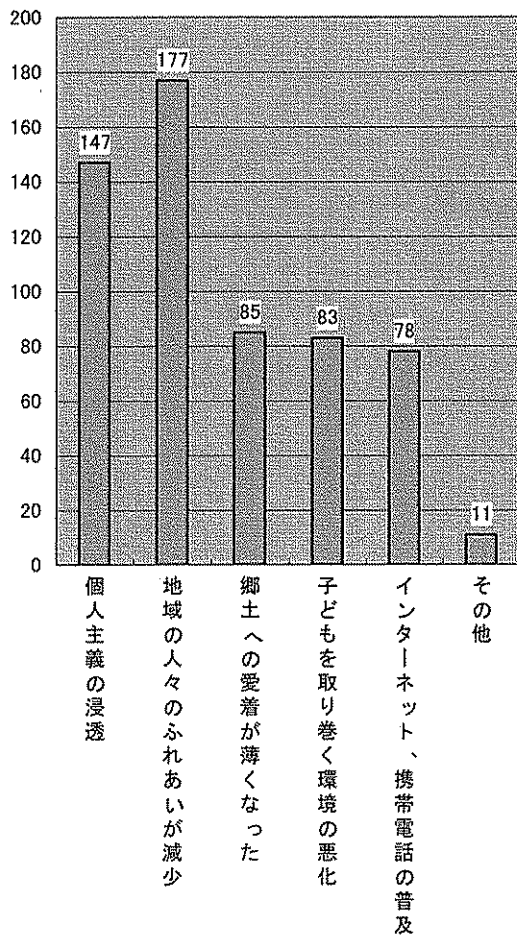
問1 自分の子どものころとくらべて、「地域の教育力」に違いはありますか。



低下していると答えた人のみ回答

※「地域の教育力」が以前と比べて低下している原因は何だと思われますか。(複数回答可)

問2 子どもを育てるうえで、地域が果たす役割は何ですか。(複数回答可)



企業と連携した家庭教育支援事業（国委託：1,079千円）

【趣 旨】

「次世代育成支援対策推進法」が施行された（平成17年4月1日）のを機に、企業と連携した家庭教育支援を推進し、親の主体的な学びを生み出す新たな契機とする。

【概 要】

- 期 日 主催者が決定。
- 会 場 企業内の会議室、体育館、事務室、食堂等講座にふさわしい場所。
- 内容例 ミニ講演会、パネルディスカッション、家庭教育相談、親子体験活動、子育てサークル等との交流会（読み聞かせ、遊びの紹介等）、ワークショップ等
- 講 師 富山県家庭教育アドバイザー等
- 対 象 企業で働く小・中学生をもつ親及び家庭教育に関心のある人
- 実施予定数 10企業

○実施事例

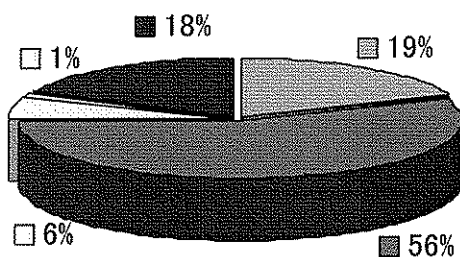
- (1) 日時 平成19年9月17日（月）
- (2) 実施企業 株式会社ユニゾーン
- (3) 会場 会議室
- (4) 講師 森みちこ氏（漫画家）
- (5) 演題 「マンガを取り入れた、ちょっとユニークな子育てのススメ」
- (6) 参加者数 104名
- (7) アンケート結果（抜粋）



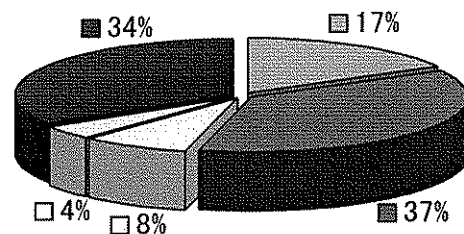
森講師

ア 講座（講演）に参加していかがでしたか。

イ このような講座（講演）があれば次回も参加したいですか。



- 大変良かった
- どちらかという良かった
- どちらからという良くなかった
- 全然良くなかった
- どちらとも言えない



- ぜひ参加したい
- 参加したい
- あまり参加したくない
- 参加したくない
- どちらとも言えない

家庭教育アドバイザー講座in企業 講座実績

平成17年度

回	企業名	期日	時間	会場	講師名	演題	参加者
1	阪神化成工業(株)	H17.11.21(月)	18:00~18:50		稲垣応顕	子どもの発達と親のかかわり	70
2	日の出屋製菓産業(株)	H18.1.20(金)	14:00~15:20	金泉寺工場	森みちこ	マンガをとりいれたちよっとユニークな子育てのススメ	57

平成18年度

小計							127
1	日の出屋製菓産業(株)	H18.9.20(水)	13:30~14:30	3階ホール	森みちこ	マンガをとりいれたちよっとユニークな子育てのススメ	120
2	(株)アイザック・ユ一	H18.12.11(月)	12:15~13:10		浦田久美子 稲垣甚二	思春期の子どもをもつ親のプログラム「ハラハラを楽しむ！」	47
3	ファインネクス(株)本社	H19.2.19(月)	7:45~8:25	本社	伊東真理子	家庭における子どものかかわり	200
4	ファインネクス(株)上条工場	H19.2.20(火)	7:45~8:25	上条工場	伊東真理子	家庭における子どものかかわり	101

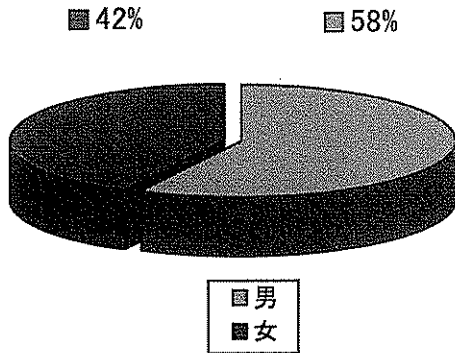
平成19年度

小計							468
1	(株)ユニゾン	H19.9.17(月)	17:30~	会議室	森みちこ	マンガをとりいれたちよっとユニークな子育てのススメ	104
2	(株)トッパンNECサーキットソリューションズ富山工場 NECトーカーン(株)富山事業所	H19.10.10(水)	17:30~	会議室	丸田知明	親の相談・こどもの相談から見えてくること～今の世の中みんな大変～	36
3	特別養護老人ホームアルデン赤丸	H19.11.26,27	17:00~	会議室	森みちこ	マンガをとりいれたちよっとユニークな子育てのススメ	50
4	オーアイ工業(株)	H20.1.19(土)	16:00~	予定			
5	新富観光サービス(株)			予定			
6							
小計							190
合計							785

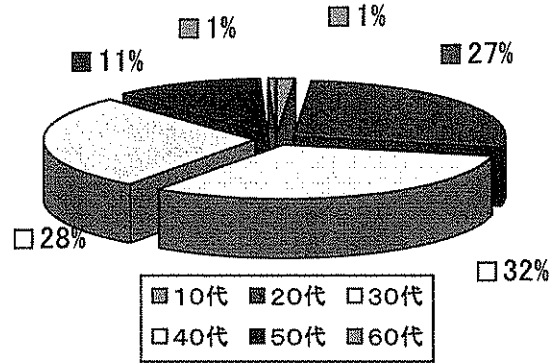
家庭教育アドバイス講座 in 企業

(平成19年度分アンケート集計結果)

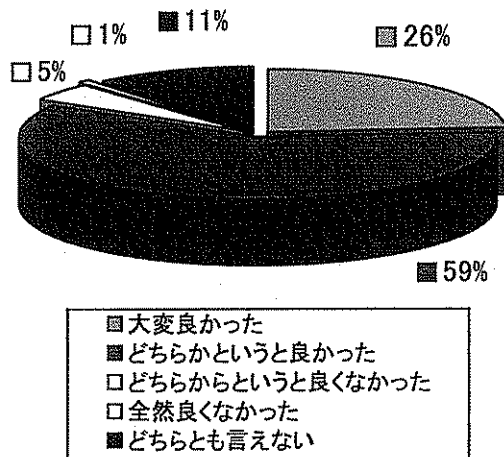
(1) 参加者数



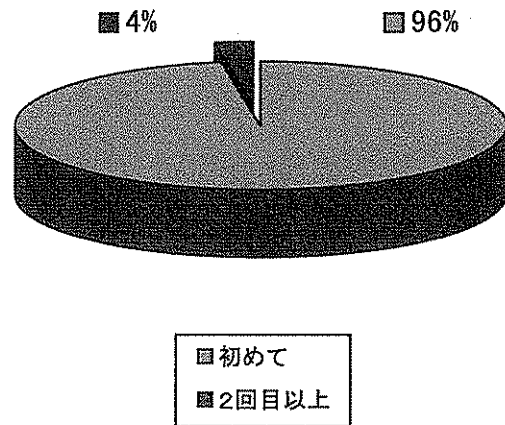
(2) 年代



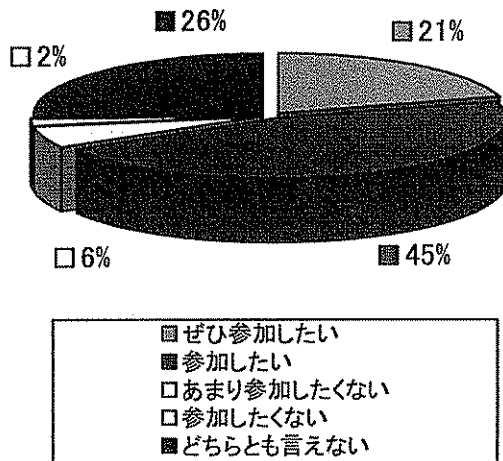
(3) 感想の概要



(4) 家庭教育講座への参加回数



(5) 次回への参加希望



(6) 主な感想

- みんなでマンガを書くのは楽しかった。私の子どもにも、感性や創造力を育てたいと思った。
- 子育てに関しては、共感できる場所が多々ありました。だから、森氏の子育ての教育を聞いて取り入れようと思う点もいくつかありました。自分中心だった毎日を、これからは子ども中心に何でも喜び合ったり楽しめ合ったりしていきたいと思いました。
- 人は皆違っているからいいと改めて感じました。